

歩こう会 歴史のアルバム 第35回

平成10年（1998年）3月24日（火）

京都 長岡天神、乙訓寺、サントリービール工場見学 参加者 61名





乙訓寺位置図



安永3年(1782)頃(朝倉宗澄公、寺之由緒)



乙訓寺遺跡跡(昭和44年秋撮影) 現在、第三小学校グラウンドに埋没

長岡京市指定文化財 有形文化財（建造物）

乙訓寺

本堂（附宮殿） 鎮守八幡社 鐘楼 表門
裏門 附棟札一枚 元禄八年（江戸時代）

昭和六十一年十一月三日指定

早良親王（桓武天皇の弟）が開創されたことが知られる乙訓寺は、長岡京遺跡調査から、かなりの規模の寺院であったことが、院北側一帯の発掘調査によって判明している。弘仁二年（八一）頃から再興した乙訓寺（弘法大師）は、同年十一月に乙訓寺別当に任じられ、その経路巡行を命じられた。空海は、弘仁三年十月、高麗寺に移ったが、ここに真言宗に由縁の寺としての歴史に引き継がれた。

中世には足利氏高が乙訓寺を南禅寺の日光徳院（即永十年）に改め、禅宗寺院として再出発した。法皇の寺とも称した。五代将軍義満およびその子孫が乙訓寺の信任の篤かった。乙訓寺は、真言宗として乙訓寺再興を計画した。当時、乙訓寺は南禅寺金地院の兼帯地であったので、東山聖国神社にまつ文殊院院敷を拝領し、金地院と交換して乙訓寺の地を手に入れた。工事は元禄七年（一六九四）十一月八日に起し、翌八年十月十一日竣工し、六月十五日に供養した。造営後は宝永二年（一七二五）八月まで除夜の杖焚き下にあったが、この年に長岡京の万福房元貞が入山して、一僧となり翌三年十一月に法華堂が建てられた。正尊中期の寺域は、長岡京遺跡の南側にあり、埋没することがある。

平成二年二月 長岡京市教育委員会

'98 3 24

